SSH 通信 特別版 No.6

お茶高 SSH
研究者インタビュー企画報告

2026.11.2

お茶高 SSH 企画「研究者にインタビューしてみよう」は、様々な分野で活躍する研究者に生徒がアポイントをとってインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校生徒に向けて発信するプロジェクトです。ここでは 1 年生 5 名が 2026 年 10 月 16 日、日本女子大学理学部化学生命科学科准教授藤原宏子先生にインタビューした内容をご紹介します。

〇藤原宏子先生（日本女子大学理学部化学生命科学科　准教授）のご研究

藤原宏子先生は、日本女子大学理学部化学生命科学科で動物行動学を専門に研究されています。特に鳥類の音声コミュニケーションに注目し、セキセイインコを用いて鳴き声の学習や音声模倣行動について研究されています。セキセイインコは、人の言葉や仲間の鳴き声をまねることができる数少ない動物の一つです。研究室では、セキセイインコがどのように音を学習し記憶するのか、またつがいの相手や仲間の声をまねる行動がどのような意味をもつのかを調べています。さらに、音声模倣行動と脳・DNA・ホルモンとの関係を明らかにすることで、鳥類の音声コミュニケーションの仕組みを総合的に理解することを目指しています。また、音声を学習して発声する能力は人間の言語獲得にも共通する特徴であるため、鳥類と人間を比較することで、人間の言語の生物学的な仕組みを理解することにもつながるとのことです。

〇インタビューで伺ったこと

Q. なぜ鳥の研究を始めたのですか？

実は子供の時から鳥が大好きだったというわけではないです。大学 3 年生くらいの時にはすでに研究者になりたいと思っていました。氏と育ちなど、そういうことにすごく興味を持っていたことを受けて、指導教員の先生から「そのような興味を持っているなら鳥のさえずり、鳴き声の発達に学習と遺伝が関わっていますよ」と教えていただいたことがきっかけで、鳥の研究をすることにしました。

Q.知らないことの多い分野の研究に対し、不安などはなかったのですか？

最初は少し尻込みしましたが、結果としてなんとかなりました。私の場合、動物行動学で神経基盤の研究をしていました。まずは行動を把握して、それから脳の部分を調べるという感じで、いろいろなことに取り組みながら少しずつ学びながら研究をしてきました。

Q 研究者になりたいと思ったのはなぜですか？

今とは少し違って、私たちの頃はまだ女性が会社に入っても男性と差があったこともあり、あまり企業に就職することは考えていませんでした。いずれは大学など公共の機関で働きたいなという思いがありました。

Q 研究者として学会などで男女差を感じることはありますか？

少ないです。ただ、生物系の場合は女性が多いほうだと思うのですが、職を得て残っていける女性の割合は少ないので、まだまだ頑張らないといけないのではと思います。

Q 先生のキャリアについて教えてください。

学位をとった後はずっと非常勤として研究を続けてきて、いくつか大学の募集に応募していましたが、なかなか通りませんでした。そこで、無給で研究ができる「学術研究員」という制度を利用して、研究室で鳥の研究を続けていました。幸運なことに、理解のある研究室に出会えたので好きな研究ができました。しかし、そのあとに就職したところでは鳥の研究ができませんでした。ところが、幸運にも4年前に日本女子大学の募集があり、鳥の研究ができることになりました。

Q 好きなことを仕事にすると逃げ道がなくなる、ということを聞いたことがありますが、実際はどうですか？

好き、という思いは大事なので、やっていて楽しめたらそれが仕事になっているのかなと思います。私は 20 代で結婚して、学位はとったけれど、大学に正規の職は得られず、ずっと非常勤講師のような形で続けてきて、大学で正規の職が得られたのは 40 代になってからでした。分野によってはなかなか厳しいのかもしれないですが、好きだから辛くても続けられると思います。好きなことをやるってやっぱり大事ですよね。

Q ライフイベント等で、自分の時間があまりとれなくなっても研究は続けることができますか？

私の指導教員に「研究を続けられるんですかね」と質問をしたところ「研究をやめようと思わなければやれるよ」と言われたんですね。自分が本当に続けたいという意思があれば研究は続けられると思います。

Q 大学の教員として、研究することや教えることについてどのようにお考えですか？

昔は、「大学の先生は学生に背中を見せて育てる」という風潮がありましたが、私も、「自分の姿勢から研究の楽しさを学生に伝える」と思っている部分がありますね。研究の面白さを若い人に知ってほしいなと強く思っています。

Q 進路などを選択するうえで高校生にアドバイスをお願いいたします。

例えば物理、化学、生物の選択でも、どれを選んだからと言ってほかのものが絶対にできないわけではありません。文系に進んでも、生物の先生の授業の影響を受けている知人もいます。既成の概念にとらわれず、柔軟に考えてもいいのではないでしょうか。



＊動物行動学のお話から研究者としての姿勢、キャリアなど幅広く貴重なお話をお伺いすることができ、非常に勉強になりました。藤原先生、お忙しい中インタビューにご協力くださり、ありがとうございました。